

# Closing Remarks

## 閉会挨拶

浦田秀次郎

GIARI 拠点サブリリーダー・早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授

本シンポジウムは朝 10 時から始まりまして、今、ちょうど 6 時であります。8 時間にわたって議論をしまいましたが、長いような気がしますし、非常に短かったようにも思います。シンポジウムでは、経済統合の現状、発展格差問題、環境協力と 3 つのテーマに分けて討論を進めてまいりました。先ほど、天児拠点リーダーも話しておりましたが、このプロジェクトの目的は人材育成であります。具体的に言いますと博士課程の学生を中心として、若手の人材育成であります。人材育成には、いろいろな方法がありますが、一つの有効な方法としては、最先端の研究に触れてもらうことだと思います。そのような認識のもとで、今回のシンポジウムでは、各テーマについて日本をはじめアジアや世界で活躍されていらっしゃる方々に出席をお願い致しました。企画者の一人としまして、今回のシンポジウムは、そのような目的の実現にあたっては、成功したのではないかと思います。それも、発表者、討論者、そして長い時間おつきあい頂いた会場の皆様方からの参加があったからこそ実現したのだと思います。

閉会のあいさつとしまして、シンポジウムでの議論をまとめる必要があるかと思いますが、私にはそのような能力もありません。そこで、私の専門としております第 1 セッションでの経済統合、それに、ある程度研究をフォローしております第 2 セッションの格差のテーマについて簡単にまとめさせていただき、3 セッションの環境協力のテーマにつきましては、少し前に終了したばかりで、記憶も新しいと思いますし、また、パネリストの方々が大変にわかりやすくお話になられたと思いますので、まとめは省略させていただきます。

第 1 セッションでは東アジアにおける経済統合の実態を分析するとともに、近年、急速に増加している自由貿易協定 (FTA) についての発表がありました。また、FTA の形成にあたって国内制度の変更が必要になることが多いのですが、そのようなケースについて韓国を例にとりまして分析が行われました。議論では、FTA が構築されているにもかかわらず、あまり活用されていないという実態について、その理由などを議論し、活用度を上げるための方策といったような、現実的な議論もなされました。また、多くの企業は FTA からメリットを受けるのであるけれども、実際には FTA の交渉は難しい場合が多く、その理由としては、社会面あるいは政治面の問題、さらには国家間の対立といったような問題があることも指摘されました。そのような問題も含めて、FTA に関しては、まだまだ研究の余地があると思われれます。

第 2 セッションの格差の問題ですが、経済統合を進めていく上で、発展格差を縮小しなけ

れば社会的、政治的に安定的な地域が形成されないわけですので、そのような観点から非常に重要なテーマであります。発展格差を考える場合に通常は一人当たり GDP という指標を用いるのですが、パネリストの方々から、教育や健康などの視点も含めるべきであるとか、経済発展には企業家精神が重要であることから、それを指標化して発展格差の議論に使えるのではないか、という斬新な意見も出されました。東アジアにおいては、CLMV と呼ばれているカンボジア、ラオス、ミャンマーおよびベトナムが発展の遅れている地域という認識があります。そのような地域における発展モデルとして、経済活動が集中するクラスターを形成するというものがあります。実際、その有効性も確認できておりますが、非常に悩ましいのは、クラスター戦略で発展する地域があれば、取り残される地域もあるということです。そういう意味では、クラスター戦略も格差を広げる可能性があるということだと思います。いずれにしましても、発展格差を縮小させるための研究の余地がたくさんあります。

博士課程の学生諸君には、本シンポジウムでの議論を参考しながら、ますます研究をして頂き、課題の解決に貢献して頂きたいと思っております。また、研究者の方々には、今回の議論を発展させるような研究を進めて頂くことをお願いしたいと思います。

地域協力を進めるにあたっては枠組みや制度の構築が必要ですが、地域制度の構築にあたっては、メンバーや内容などについての議論は不可欠です。また、制度の効率的運営にあたっては、ガバナンスの問題も重要です。但し、現実の話としては、東アジアにおける地域協力の枠組みを考える場合には、日中や日韓といった国家間の問題は避けて通れません。ここで重要になってくるのが国際政治です。来年のシンポジウムですが、2010年12月3日の金曜日に同じ場所で「政治」をテーマに行われます。皆様方には、今、手帳に記していただき、是非、ご出席して頂きたいと思っております。

本日は、本当に長い時間をお付き合い頂きまして、ありがとうございました。今日の発表者、討論者の方々にも熱い拍手を送りください。どうもありがとうございました。



浦田秀次郎(GIARI 拠点サブリーダー)